

伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

清栄山の麓、その全域を網羅するかの村山。

やや高台にあり、眼下に南阿蘇を眺めるその位置は、古来より要塞としての役割を果たし、山城村山城は、南郷七城に数えられていました。

今は、その位置すら忘れられ、探すことが困難な村山城は、最も山城



▲清栄山（高森・村山）

の所以である造りに特徴がありました。

中世に築かれた城の多くが、山の中腹及び山頂にあり、居城と言うより、事ある時に駆けつけるシンボリックなものであり、熊本城に見られるような、石垣そして高層ではなく、平屋にして展望がきく間取りだったのでしょうか。

しかし南郷七城に讃えられるほどに美しく、そして逞しく映っていたことでしょうか。

村山城は、豊後大友氏との関係が深く、薩摩島津氏との抗争が繰り返された高森城と距離的に近いばかりか、盟友としてまた南郷の祖としてその役割は大きいものでした。

豊後大友氏との関係は、竹田岡藩を経由しもたらされ、当時の高森町人は肥後の国人としてより、むしろ豊後の国より守られていたと言える

ほどに深い関係でした。

村山は背後に山々を重ねもち、その山々を越え、高千穂から日向に至るまで多くの交流がありました。その峰々を越え、徒歩で約一時間三十分余の所に、草部の高尾野があります。その高尾野には、古刹円満寺があります。

高尾野に至るその途、外輪を登りつめた周辺に、近年多くの人達が訪ね来るようになった「パワースポット」があります。現在村山を語るには欠かせぬ、「高森殿の杉」です。

阿蘇の山々が眼前に広がり、多くの人達を魅了するこの地。パワースポットの存在。うなずけます。

村山は広く、清栄山一帯からラクダ山を越え、休暇村に至ります。

村中を横に貫くように石垣塀が続きます。それに用いられた石の多くは周辺からもたらされたものでしょうが、川は無いと言っているほどに、細い流れが白川上流へと流れこんでいきます。石工を育て、そして災害よりの防御となったこの石垣。

石垣がもつその意義は、家々を誇

示するばかりか、石垣によって整理整頓された地区の誇りと、防災害に大きな力となり、過去の歴史的な優位性を垣間見る事が出来ます。まだほとんどの石垣内には家が残り、曲折して入る特徴があります。

自然石のまま築かれた石垣に登り見渡す周囲から、往時が偲ばれます。

高千穂へと結ぶ国道を左に入り、外輪山を越えるその町道から、展望がきく場所に至ると、右手前方に見えてきます。それは孤立してあるのではなく、後方の杉林と一緒に、ただ漠然として現れます。

町道から牧場の扉をあげ、五分も歩けば「高森殿の杉」に辿りつくことが出来ます。

春夏秋冬、どの季節に訪ねても「高森殿の杉」の姿と、眼下に見下ろす南阿蘇の風景の素晴らしさに、しばし頭をたれます。

野の花が咲き、モーと鳴き声が近づき何頭かの牛とたわむれる。

樹齢数百年、壇下に男女杉二本が現れ、圧倒され只服装をただす。厳かな出会いでした。